

---

 Catch the eye 2015年10月
 

---

2015/10/9  
(金)

秋の夜長に

気がつけば10月も上旬の終り。風はつめたくなり、開放していた窓も閉めにかかる。昨日は寒露、13日は旧暦9月1日。晩秋とあいなる。

例年私用が重なる9月前後。加えて今年は仕事でない仕事を頼まれ、引き受け、何かと立て込んだ。日曜がフリーになるのも久しぶり。それもよし。今年初めに課したテーマはこういうことだったのかと思う。

その今年も残りわずか。来年も視野に、この一年をふりかえり、新しい年の予兆に目を配り始める季節、秋。毎年のことだから、毎年この時期に同じことを書いている。

今年ここまでの流れ、その行き着く先、それがもたらしそうな新しい展開。いま見えているものから、まだ見えない状況を頭の中で展開し、自分にとっての意味を考える。

自分なりの意味づけ。前途はそれしだい。何をどう考え、判断をくだし、次の動きを選択するか。無意識にしていることでもあるけど、意識していれば、おそらく「better QOL」の一助。

さてさて、あなたのここまでの流れはどうでしたか。秋の夜長に思索の旅を試みるのも一考です。過去から現在、現在から未来。すっかり忘れていたことを思い出し、思いがけないことが閃くかもしれませんよ。

2015年10月  
14日(水)

クレオ中央

この日の午前セミナーがあり、終わってからランチミーティング。その場所が2Fのテラス。仕事ながら、ちょっとした「オフ感」を味わったのでした。

2015/10/20  
(火)

本

金木犀は遠くに香る。どこにあるのだろうと辺りを見まわす。人の家の玄関先に、公園中央の植垣に、公園周縁の雑木林に。ここにあったかと木に近づく。オレンジ色の小さな粒の花房が枝葉のすき間を埋める。花は可憐、香りに艶。小悪魔的で秋らしい。

秋といえば読書、なんて今では当てはまりそうにない。本よりゲームという様相、電車の中もテレビCMも。今日の朝刊に、『本を読む人だけが手にするもの』という本の広告が載っていた。これまでは暗黙のうちに共通認識だったことが、今では声を大にしなければいけない。

いま生きている人から教えられることだけでなく、時をこえ国をこえて、過去に生きた人々から教えられる。そのことで、何か普遍的なもの、真理的なものを、自分では意識することなく、知っていく、獲得していく、そういう媒体だろうと思う本は。

その一冊をあげるとすれば、『モンテニユ 初代エッセイストの問いかけ:』（荒木昭太郎 中公新書）。過日久しぶりにこの本を開いて、目を見張った。長い時間を経て、また読むと、注目するところが違う。本は読む人の変化、進化あるいは退化(?!)を映す鏡だ。

秋、過去に読んだ本を手にして再び読むのも一考です。

2015/10/24 創業する人  
(土)

晴天続き。日中は陽射しが強く、暑いほど。明日は大阪マラソン、予報では晴れて気温は少し下がるとか。絶好のマラソン日和になりそう。来週火曜は雨になり。その後秋らしくなるそう。今日は霜降。

『言おうかどうしようか迷ったんですけど・・・』と、ビジネスプラン発表の壇上で個人的なことから話だした人。一ヶ月あまり創業塾で共に学んだ仲間たちが静かに傾聴する。

創業塾や自業（じぎょう）塾などを受講する人たちは、それぞれに何かの節目にある。深い思いを内に秘めている。最初の頃は、聞いて初めて思い知らされた。今ではある程度想像できる。

それでも、そうだったのかと思いを新たにし、これから先の道のりにエールをおくる。どんなことが待ち受けているか、具体的なことは個々人によって異なるけど、平坦に歩むことはないのが創業。

平坦であっては意味もない。思いがけないこと、ハードルが訪れてこそ、眠っている才が目覚めるというもの。わるい時ほど、自分ならではの才が引き出されて、自分をまた一つ知る。

受けた起つ。未知のハードルに受けて起つ、そう自分にハッパをかけましょう。気概をもちましょう。自分をささえるのは自分。そう了解し努める限りは、あなたを支える人は必ずいるもの、現れるものです。

2015年10月  
26日（月）

秋の桜葉

仕事ならぬ仕事で出かけた鳴野。行き道すがら、公園に桜の木。そろそろ色づき、足元に落葉



2015/10/29  
（木）

習慣

火曜の夜、少し雨が降った。翌日はまたよく晴れた。今日も秋晴れ。日の出がおそくなり、明け方、十六夜の月が西に輝いていた。まもなく11月。立冬も近い。

今年はなぜか診断士の世界に引き込まれ、仕事でない仕事を2つやることになった。人のためにもなり自分のためにもなるだろうし、今年はこの年なのだ、おそらく。なにせ、他にも1件あるものだから。

11月を迎える頃になると、“今年は、けっきょく、こういう年になったか…”と確認できるようになる。仮説と検証。年初の予想を現実の中に見てとる。なるほど、こう来たか、そんなことが舞い込むか、等々。

やはり、直感や、ふと思いつくようなことは、未来に待っている出来事を予感しているのではないかと考えている。仕事上でも時々そんな話をする。自他ともの経験談と、聞きかじりの科学知識から想像して。

だから自分自身にむける目、観察、感度が大事だと考えるわけ。何かを見て聞いて、自分の中で起こる感情や気持ち、意識や思考の変化、流れを見極めようとする習慣。なにごととも人生の質は習慣に依る。

2015/10/29  
(木)

中之島

東洋陶磁美術館『新発見の高麗青磁』へ。ずいぶん前に、日経の文化欄に韓国の海洋考古学が成果を出しているという記事が載っていた。駅でポスターを見たときに、その成果を展示しているのだろうと、興味を持っていた。展示には荷札にあたる木片も添えられていて、時空を超えて、当時の生活ドラマが頭の中に映るようであった。



2015/10/31  
(土)

大阪城公園

クレオ東館の起業相談を終えた帰り。絶好の秋晴れ、影がのび、紅葉も進む木々。





\* 10月事後メモ 9月から10月にかけても、ボランティアで引き受けた仕事なども重なり、何かとあわただしくすぎてきて、一つが落ち着いたところで、ほっと一息。この仕事では初めて知り合った同業の人たちと一緒にあった。

こういうときに、＜自分ならではの＞を再認識する。自分では何気ないが、やはり流儀がある。あらためて、そう感じたので、これは、再現メモをとっておこうと考えた。人の動きをつぶさに記録することは難しい。今回の一定期間なら、記録しやすい。

さて、入力にとりかかった。でも、途中で、ちょっと面倒だなあ、やめようかなあ、と思った。企画書をつくるとかとは違って、流儀を再現して記録するという作業がムダに思えた。でも、気を取り直して、時系列で記録していった。